

パーキンソン病リハビリテーション入院患者への 看護援助に関する満足度

山本優里^{#1} 松本直也^{#1} 新堀悦也^{#1} 澤田亜希^{#1} 濱本和恵^{#1}

#1 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

受付 2020.3.9 受理 2020.3.13 出版受託 2021.3.10

要旨

パーキンソン病リハビリテーションで入院中の患者にレクリエーション活動導入後の看護援助に関する満足度を明らかにすることを目的にアンケート調査を行った。SPSSを使用し、カイ2乗検定を行った結果、ストレス軽減を入院目的とする患者と相談や手助けが必要な時看護師の対応について有意差があった。また、入院回数とレクリエーションの工作在楽しかったを選んだ患者について有意差があった。その他のデータについて有意差はなかった。ストレスの軽減を目的とする入院患者だけに限らず、看護師の対応については満足度が高かった。入院回数とレクリエーションの工作在楽しかったを選んだ患者については、初回入院患者の満足度は低く、入院2回目以上の満足度は高かった。初回入院の患者における積極的な対話を図り、不安や緊張を緩和する関わり強化を図る。また、入院回数に関わらず、患者の状態や要望に合わせて、レクリエーションの内容の検討が必要である。

キーワード：入院患者, 満足度

はじめに

A病棟では、平成21年度から5週間の入院期間で、パーキンソン病(Hoehn & Yahr 3期まで)の患者を対象にして意欲高揚エクササイズプログラムを実施している。意欲高揚エクササイズとは、患者のストレス軽減と、個々の患者の身体及び精神状態等に合わせたリハビリテーションやレクリエーションのことである。意欲高揚エクササイズを受けるために、県内外から入院されるリピーターも多い。入院生活では、パーキンソン病の進行状況を把握するために必要な検査を実施し、患者個々に合わせた環境調整、内服管理方法の検討、症状を把握しその対策の検討などを行っている。また、患者や家族には、疾患に関する知識を向上してもらうために必要な生活指導や服薬指導を実施している。2カ月に1回程度、パーキンソン病教室の公開講座を開催し、栄養士・理学療法士・看護師等による患者教育の場を設けている。さらに、患者・職員を交えて意見交換会を実施し、入院中に実施した評価や感想を貰うようにしている。平成25年度、A病棟では入院生活の

満足度を明らかにする目的でパーキンソン病専用リハビリテーション入院患者の満足度調査が行われた。平成29年度からは、看護師が主導で患者と共に企画した内容にてレクリエーション活動を実施している。患者から、「入院するまでは不安だったが、作業をしながら同じ病気の人達と色々会話が行えるため有意義だった。」等の意見も多く聞かれている。しかし、看護師が行うレクリエーション活動についての患者満足度については明らかにされていない。そこで今回は、レクリエーション活動導入後の患者への看護領域に関する満足度についてのアンケート調査実施することで、今後の看護ケアやレクリエーション活動の質の向上につなげることができると考え、本研究に取り組む。看護援助とは：日常生活援助や看護師が実施している意欲高揚エクササイズの中のレクリエーション、意見交換会、退院説明会のこととする。

対象と方法

対象者は、令和元年10月から12月の期間に入院したMMSE24点以上のパーキンソン病

患者 19 名。正確な評価につながるように MMSE24 点以上の入院患者を対象にした。アンケートは、先行研究を参考に独自に作成した。アンケートは①看護師の日常生活の体の動きを良くするための関わり（声かけや廊下の目印テープ）について②レクリエーションについて③看護師の対応について④意見交換会について⑤退院時説明について、「満足」4 点、「やや満足」3 点、「やや不満」2 点、「不満」1 点も 4 段階評価とし最後に自由記載を設けた。入院 5 週目に書面を用いて調査依頼と回収方法の説明を実施して、調査票を配布する。アンケートは封筒に入れて回収箱に入れてもらうようにした。分析方法は、分析ソフトは IBM SPSS Statistics バージョン 24 を使用し、属性と看護領域に関する満足度についてカイ 2 乗検定を行った。有意水準は 5%とした。

倫理的配慮

研究に使用するアンケートは無記名とする。研究の回答は自由参加であり、途中で同意を撤回することは可能である。アンケート回収後、同意を撤回しても不利益が生じない。患者の個人情報や鍵付きロッカーで厳重に管理する。対象者となる患者の本研究での個人情報及び研究より得られた結果は研究発表以外には使用しない。アンケート結果は研究終了後に破棄する。

結果

アンケートは 21 名中 19 名の回答が得られた。男性 11 名 (57.9%)、女性 8 名 (42.1%) であった。平均年齢 62.3 歳 (標準偏差 8.34)。入院回数は初回入院 7 名 (36.8%)、2 回目以上 12 名 (63.2%) であった (図 1)。

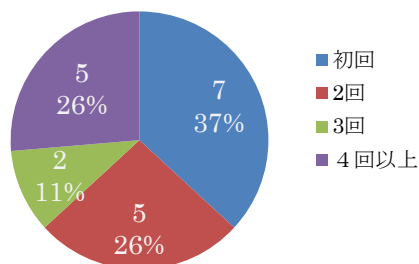


図1 入院回数

都道府県別では県内 9 名 (47.4%)、県外 10 名 (52.6%) であった。入院目的にリハビリを選んだ患者は 17 名 (89.5%)、レクリエーションを選んだ患者は 2 名 (10.5%)、同じ病気の患者と入院生活を過ごすを選んだ患者は 7 名 (36.8%)、ストレスの軽減を選んだ患者は 6 名 (31.6%) であった (図 2)。

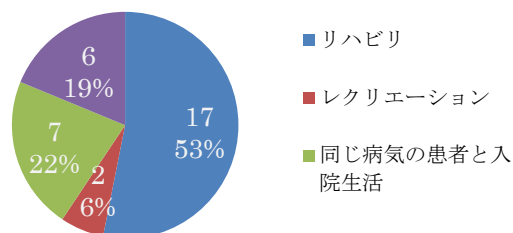


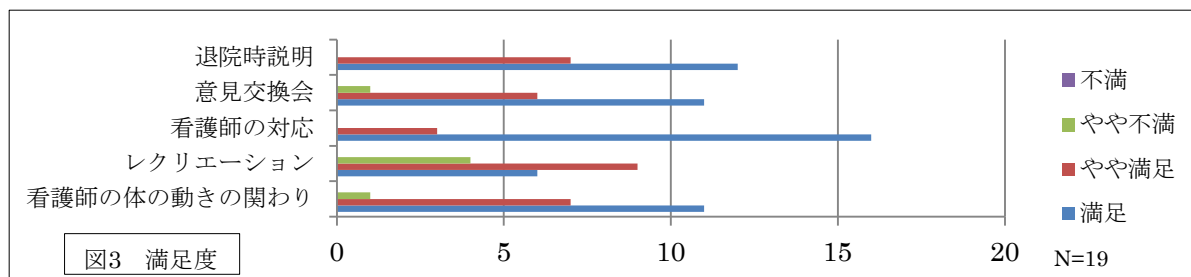
図2 入院目的

N=19

看護師の日常生活の体の動きを良くするための関わり（声かけや廊下の目印テープ）について満足と答えた患者は 57.9%、やや満足と答えた患者は 36.8% であった。看護師が行うレクリエーション活動について満足と答えた患者は 31.6%、やや満足と答えた患者は 47.4%、やや不満と答えた患者は 21.1% であった。レクリエーション活動で楽しかった内容は工作 47.7%、カラオケ 73.7%、嚙下体操 5.3%、座談会 57.9% であった。相談や手助けが必要な時の看護師の対応について満足と答えた患者は 84.2%、やや満足と答えた患者は 15.8% であった。意見交換会について満足と答えた患者は 57.9%、やや満足と答えた患者は 31.6%、やや不満と答えた患者は 5.3% であった。看護師の退院時説明について満足と答えた患者は 84.2%、やや満足と答えた患者は 63.2% であった。退院時説明の看護師の説明の仕方について満足と答えた患者は 57.9%、やや満足と答えた患者は 26.3% であった (図 3)。SPSS を使用し、カイ 2 乗検定を行った結果、ストレス軽減を入院目的とする患者と相談や手助けが必要な時看護師の対応について有意差があった (p 値 = 0.021)。また、入院回数とレクリエーションの工作が楽しかったを選んだ患者について有意差があった (p 値 = 0.002) (表 1.2)。その他のデータについて有意差はなかった。アンケートの自由記載には「レクリエーションの時間を長くしてほしい。」「スタッフの対応が良かった。」「県外からなので休日病院だけで過ごす機会が多く、リハビリなど同じ病気の人が気軽に使える場所があったら嬉しかったと思う。」「レクリエーションのゲームは何のためにしているのか分からなかった。」があった。

考 察

有意差のあるデータについて、ストレスの軽減を目的とする入院患者は 31.6%、相談や手助けが必要な時看護師の対応の満足度は、満足と答えた患者は 84.2% と高かった。スト



レスの軽減を目的とする入院患者だけに限らず、看護師の対応については満足度が高い。鈴木は「看護師は日常業務において患者とのコミュニケーションの中から、信頼関係を築くとともに患者の求めていることはなにかを的確に判断すること、また、必要なことは看護師間・医師との間で情報に交換をし、心配りや援助を行うことが重要である。」と述べている。このことから、看護師は患者に最も身近な存在であり、患者との信頼関係は必須である。患者の個別要望に配慮して対応していくことで、患者の満足度は向上すると考える。入院回数とレクリエーションの工作が楽しかったを選んだ患者については、初回入院患者の満足度は低く、入院2回目以上の満足度は高かった。「レクリエーションの時間を長くしてほしい。」「レクリエーションのゲームは何のためにしているのか分からなかった。」という意見があった。パーキンソン病は緊張が続くと症状に影響するため看護師の行っているレクリエーションは、病気のことを忘れる時間を作ることで身体の動きを良くし、気分転換やストレスの軽減を目的に行っている。レクリエーションは1回30分で行われており工作をするには時間が短いことや身体の動きの状態によっては手先を使う工作活動は難しい場合もある。必要時、看護師が介助を行い共に創作活動に取り組

んでいる。初回入院時は、環境の変化や緊張していることも考えられるため、レクリエーションが気分転換になりにくかった可能性がある。入院2回以上の患者は環境の変化に適応する時間が早く、レクリエーションの意義を理解しているため満足度が高かったと考えられる。これらのことから、初回入院の患者へ積極的にコミュニケーションを図り、患者の不安や緊張を緩和する介入が必要である。初回入院患者はリハビリをして病気を少しでも治したいという気持ちから何のためにレクリエーションを行っているのか理解していない可能性があると考えられ、レクリエーションに対する初回入院時の満足度は低かったため、ストレスの軽減や気分転換に繋がることへの説明を強化していく必要がある。創作活動を好まない患者もいるため今後も活動内容を患者と共に検討していき、レクリエーション活動の質の向上に繋げていくことが重要である。

今回の満足度調査では、アンケート調査期間が短いことや患者のMMSEの結果に配慮したためデータが少ない。今後も満足度調査を継続しデータ収集を行い、患者のニーズを把握していく必要がある。

表1 入院目的(ストレス軽減)と看護師の対応の関係

	相談や手助けが必要な時の看護師の対応満足以外	相談や手助けが必要な時の看護師の対応満足	合計
ストレスの軽減が入院目的である患者数	3	3	6
入院目的ストレスの軽減を含む・含まない%	50.0%	50.0%	100.0%
相談や手助けが必要な時の看護師の対応を含む・含まない%	100.0%	18.8%	31.6%
ストレスの軽減が入院目的ではない患者	0	13	13
入院目的ストレスの軽減含む・含まない%	0.0%	100.0%	100.0%
相談や手助けが必要な時の看護師の対応を含む・含まない%	0.0%	81.3%	68.4%
合計	3	16	19
入院目的ストレスの軽減を含む・含まない%	15.8%	84.2%	100.0%
相談や手助けが必要な時の看護師の対応を含む・含まない%	100.0%	100.0%	100.0%

カイ2乗検定 p値=0.021(Fisherの直接法) (p<0.05)

表 2 入院回数とレクリエーション(工作)の関係

N=19

	工作楽しかった	工作楽しなかった	合計
入院初回	0	7	7
入院初回・2回以上%	0.0%	100.0%	100.0%
工作楽しかった・楽しなかった%	0.0%	70.0%	36.8%
入院2回以上	9	3	12
入院初回・2回以上%	75.0%	25.0%	100.0%
工作楽しかった・楽しなかった%	100.0%	30.0%	63.2%
合計	9	10	19
入院初回・2回以上%	47.4%	52.6%	100.0%
工作楽しかった・楽しなかった%	100.0%	100.0%	100.0%

カイ2乗検定 p値=0.002(Fisherの直接法) (p<0.05)

引用文献

- 1) 鈴木芳匡他：入院生活に患者の期待と満足度-入院中の患者への期待度・満足度調査を通して. 東京医科大学病院看護研究集録, 2000:104